

# 大患難期の前に起きる事

聖書フォーラム 福岡集会 時別セミナー  
2020年5月16日

出典：“The Footsteps of the Messiah” Arnold G. Fruchtenbaum,TH.M.,PH.D.

第一部  
オリーブ山での弟子たちへの教え  
マタイ24・25章を中心として

## P.1 文脈の確認

- ・マタイ23章は、群衆を前にしての最後の教え
- ・その最後のことば 23：38～39
- ・あなたがたの家は荒れ果てたままに残される
- ・「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」と  
あなたがたが言うときまで
- ・イエスは神殿を去り、オリーブ山へ

## P.1 オリーブ山での弟子たちへの教え

- ・【神殿の崩壊】の前兆
- ・【この世の終わり】の前兆
- ・【イエスの再臨】の前兆

## P.2 用語の確認

- この世 = 今の時代
- 次の世、来るべき世 = メシアの王国
- この世の終わり = 大患難期（7年）
- 再臨 = イエス・キリストが地上に帰る
- 携挙 = 大患難期の前に、教会の信者たちが  
天に挙げられること

## 信者の区分 4つ

- 旧約の信者たち
  - 【使徒2章聖靈降臨】より前に死んだ信者たち
- 教会の信者たち・・・「イエスにある」
- 大患難期の信者たち
  - 【教会の携挙】の後に信じた信者たち
- 千年王国の信者たち

## P.4 神殿崩壊の預言と弟子たちの質問

- ・マタ24：1～2 イエスが神殿崩壊を預言
- ・マタ24：3 弟子たちが3つの質問

神殿崩壊はいつ？

イエスの再臨の前兆は？

この世の終わりの前兆は？

## P.4 この世の終わりの前兆

- ・マタ24：4～8
- ・前兆ではないこと（2つ）偽キリスト・局地的な戦争
- ・前兆となること（3つ+そのほか）
  - 世界大戦
  - 飢饉
  - 地震
  - 疫病そのほか（ルカ21：11）

## P.4 神殿崩壊はいつか

- ルカ21：12～19 その前に使徒たちへの迫害
- ルカ21：20～24
- 前兆は、「エルサレムが軍隊に囲まれる」（20節）
- マタ12：31～32 救されない罪＝メシアを悪霊憑きとして拒否した罪（マタ12：24）
  - 当時のユダヤ人たちの世代に神のさばきが下る
  - エルサレム陥落と神殿崩壊（紀元70年）

## P.5 再臨の前兆① 大患難期

- マタ24：9～14 大患難期の前半期
  - 14節 世界宣教  
その担い手は、黙7：3～8、14：4
- マタ24：15～27 大患難期の後半期
  - 15節 荒らす憎むべきものが聖なる所に立つ
  - 28節 死体のある所に、はげたかが集まる

## P.5 再臨の前兆② 暗黒・栄光

- 死体 = イスラエル、はげたか = 反キリスト軍
- マタ 24 : 29 ~ 30 イエスの再臨
- 「暗黒」が世界を覆う
- 「人の子のしるし」 = イエスの再臨の前兆
- 天に現れる → 「輝かしい栄光」
- 再臨の前兆 = 神の栄光が天に現れる

## P.5 イスラエル民族の帰還

- マタ 24 : 31
- 大きなラッパの響き
- 天使たちが遣わされる
- 75日間の移行準備期間の中で起きる
- 天の果てから = 旧約の信者たちの復活
- イスラエル民族が帰還する → メシアの王国

## P.5 いちじくの木のたとえ

- ・マタ24：32～35
- ・新芽が出たら、夏は近い
- ・これらのことを見たら = 特に15節の「荒らす憎むべきものが聖なる所に立つのを見たら」
- ・人の子が戸口まで近づいている  
= あと3年半で再臨

## P.5～6 携挙に関する教え

- ・マタ24：36～42
- ・36節冒頭「ただし」→「ところで」話題転換
- ・38節 日常生活 = 大患難期の前
- ・39節 人の子の来る = 携挙
- ・40～41節 信者と不信者との区別  
ひとりは取られ、ひとりは残される

地上から教会が携挙されると

- ・いったん地上から信者がいなくなる
- ・イスラエル民族の中から、14万4千人の青年男子がメシアを信じる（黙7：4、14：4）
- ・イスラエル民族の「初穂」（黙14：4）
- ・彼らが大患難期の前半で世界宣教
- ・多くの異邦人が信者となる（黙7：9）

## P.6 5つの連続するたとえ話

- ・マコ13：33～37 門番
- ・マタ24：43～44 家の主人
- ・マタ24：45～51 忠実な僕と悪い僕
- ・マタ25：1～13 十人の娘
- ・マタ25：14～30 タラント

## P.6 信者と不信者の区別

- ・目をさます・用心する・忠実である←信仰ゆえに
- ・忠実なしもべと悪いしもべ、賢い娘と愚かな娘
- ・5つのたとえ話はすべて、信者と不信者の区別
- ・共通の結論部分=マタ25：31～46

大患難期を生き延びた異邦人を信者と不信者とに区別する：信仰はユダヤ人への対応に表れていた

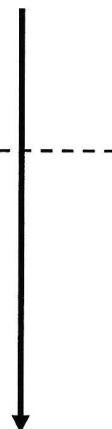
## 第二部 時系列での推定配置 9つ

## P.1 イスラエルの世界離散

- 第一次ローマ・ユダヤ戦役 紀元 70 年  
エルサレム陥落・神殿崩壊
- 第二次ローマ・ユダヤ戦役 紀元 135 年  
偽キリスト登場・地名は「パレスチナ」に
- イスラエル民族の世界離散
  - モーセの預言（申命記 28:15～68、31:16～32:44）
- 申 32:8～9 国々の領土は離散民の受け入れを織り込んで、神が定めておられる

## P.1～5 9つの前兆 時系列

- A) 第一次世界大戦と第二次世界大戦
- B) イスラエルが再建国される
- C) エルサレムがユダヤ人の支配下になる
- D) 北方の連合軍がイスラエルに侵攻する
- E) 世界統一政府が樹立される
- F) 世界は 10 の地域に分けて統治される
- G) 反キリストが登場する
- H) 平和と見せかけの安全の期間
- I) 7 年条約（大患難期の始まりでもある）



## P.1 前兆A 世界大戦

- マタ 24 : 7  
「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がる」
- メシアが来る前に起きる世界的な戦争を指す
- 第一次世界大戦→シオニズム運動
- 第二次世界大戦→イスラエル建国
- 世界大戦と共に飢饉と地震が頻発するようになる

## P.1 前兆B イスラエルの再建国

- エゼ 20 : 33 ~ 38 不信仰の中での帰還  
37節の「むち」は、大患難期
- エゼ 36 : 22 ~ 24 回心の前に帰還  
25節で「きよめられる」・大患難期の末期
- 参考：イザヤ 11 : 11 ~ 12  
2回目の帰還、信仰をもって

## P.2 前兆C エルサレムの支配

- 大患難期にエルサレムで起きること  
ダニ 9 : 27  
マタ 24 : 15  
II テサ 2 : 3~4  
黙 11 : 1~2
- 1967年六日戦争で、エルサレムがユダヤ人の支配下に

## P.2 前兆D 北方の連合軍①

- エゼ 38 : 1~6
- ゴグ = マゴグの地のリーダー
- 北の果て = ロシア
- 連合する国々（アラブ諸国は参戦しない）  
イラン、エチオピヤ、ソマリヤ  
ドイツ、アルメニヤ

### P.3 前兆D 北方の連合軍②

- エゼ 38：7～9 イスラエルへ攻め入る  
8節は、その時のイスラエルの状況
- エゼ 38：10～13  
ロシア側の目的は、略奪
- エゼ 38：14～16  
神の目的「わたしの聖なることを示す」

### P.4 前兆D 北方の連合軍③

- エゼ 38：17～23 連合軍が壊滅する  
地震（19～20節）、内乱（21節）  
疫病、流血、豪雨洪水、雹、火、硫黄（22節）
- エゼ 39：1～6 壊滅の場所  
イスラエルの山々（4節）  
ロシア本国も（6節）

## P. 4 前兆D 北方の連合軍④

- エゼ 39：7～8  
神の名がほめたたえられる
- エゼ 39：9～10  
残留兵器の処理 7年
- エゼ 39：11～16  
戦死者の遺体回収 7か月

## P. 4 前兆E 世界統一政府の樹立

- ダニ 7：23  
「第四の国」 = ローマ帝国以降の国際社会  
東西の分立 → 東のロシア没落により統一へ  
「全土」 = 全世界

## P.5 前兆F 10人の王

- ・ダニ 7：24a
- ・世界は10の地域に分割される
- ・各地域に1人の王が立つ
- ・10人の王による統治体制

## P.5 前兆G 反キリストの登場

- ・世界は10人の王によって地域別に統治
  - ・ある地域の1人の王のもとに
  - ・その地域の中の小国から
  - ・反キリストが登場
- 正統な権威はないが、白馬の騎士のように
- ・Ⅱテサ 2：1～3 主の日の前に起きるべきこと

## P.5 前兆H 平和と見せかけの安全

- I テサ 5 : 1 ~ 3
- 1 節「それらがいつなのか」 = 携挙がいつなのか
- 携挙は、教会の信者たちを大患難期の前に地上から救い出すこと (I テサ 1 : 10、5 : 4~5、9)
- 主の日（大患難期）は突如として来る
- 人々が「平和だ。安全だ」と言っているとき

## P.5 前兆I 7年条約

- ダニ 9 : 24 ~ 27  
反キリストとイスラエルが、国家間の条約
- イザヤ 28 : 14 ~ 22  
神の目からこの条約はどう見えるか  
15節「死と契約を結び、よみと同盟」
- これをもって、大患難期が始まる

P.6 3つの前兆 配置不明

- A) 暗黒（第1回目）
- B) 預言者エリヤが遣わされる
- C) 第三神殿

P.6 暗黒（第1回目）

- ヨエル2：3 1
- 暗黒
  - 太陽、月、星の光が突然遮断されて、  
地上にこれらの光が全く届かない状態
- 大患難期の前に1回、期間中に4回、計5回

## P.6 預言者エリヤが遣わされる

- ・マラキ4：5～6
- ・5節 主の日（大患難期）の前に
- ・6節 エリヤの使命  
ユダヤ人の家族の結びつきを回復すること

## P.6 第三神殿が建設される

- ・大患難期の前か、遅くとも大患難期の前半で
- ・後半期のスタートは、  
反キリストが、神殿に来る（マタ24：15）  
自分を神と宣言（Ⅱテサ2：4）  
神殿の前に自分の像を設置（ダニ9：27、黙11：2）
- ・神は、この神殿を認めない（イザヤ66：1～6）